

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和3年9月8日

苫小牧市図書館協議会 会長 松井 操人

<総評>

令和2年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、レファレンス受付件数や児童貸出冊数など、目標値に届かないものが多数見受けられました。そうした中でも郷土資料の充実やデジタル化、レファレンス受付フォームの設置や児童向け作家講演会の開催など、コロナ禍でもできることに取り組んだことは評価できると考えます。

臨時休館等があり、本に触れる機会が少なくなってしまった中で、安全に図書に触れることができる電子図書館の充実が図られたことはよいことですが、インターネット環境がない方々がいることも考慮し、オンラインではない非来館サービスの充実を図っていただきたいと考えます。特に、高齢者や障がい者に対するサービスの充実は急務であると考えます。また、来館しなくても参加できる取組やイベントの実施に期待するとともに、新型コロナウイルス感染症収束後を見据え、来館者へのサービスの充実も図っていただきたいと考えます。

子どもの読書環境の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響で児童貸出冊数やブックちゃんの貸出件数が減少してしまいましたが、その時の状況に応じた工夫や新たな取組があってもよかったのではないかと考えます。現在もコロナの収束が見えない中で、学校との連携も含め、どのような取組ができるのか、新たな発想や取組に期待します。

レファレンスについては、図書館の重要な役割であり、求められる内容の多様化が想定されます。地域課題解決に対しては明確な活動と支援が見受けられますが、家庭生活や職業上の課題の解決に対する支援の形や方向性が見えにくいと感じられます。多様化する課題の解決支援のためにも、レファレンス研修の充実等でさらなるスキルアップを目指していただきたいと考えます。

コロナ禍の時代において、安全・安心であらゆる世代が利用しやすい環境整備は重要です。引き続き取り組んでいただくとともに、市民の読書環境の充実及び苫小牧市の文化・情報の発信の場としての図書館であることも踏まえながら、今後どのようにあるべきか、特色や方向性を明確にして運営に臨んでいただきたいと考えます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、さらなる図書館運営の充実に努めてください。

「運営計画1 基礎的な図書館サービスの充実」について

【評価する点】

- ・多方面にわたり考慮されていると思います。
- ・コロナ禍の中、大変な一年だったと思います。これからは多くの人が集まる場所は、安心して過ごせることが第一になってくるとと思いますので、環境整備に取り組んでいることは評価できます。
- ・あらゆる世代が利用しやすいように環境整備を行っていることは評価できます。
- ・レファレンスサービスなど、職員の対応がとても親切、丁寧です。今後も市民の要望に応じていってください。
- ・コロナの影響を受け、来館者が減少したことによって数値が下がったり、実施できなかつたりした部分については、仕方のないことだと思います。そういう中であって、郷土資料の充実やデジタル化を着実に進めたことはよかったですと思います。
- ・来館しにくい環境の中、安全に図書に触れることのできる電子資料の充実に努め、市民に周知したことにより利用が増えたということであれば、なおよかったと思います。
- ・郷土資料の充実、デジタル化が進んでおり、地域に根ざした図書館としての意義が認められます。

【改善を要する点】

- ・電子図書館の普及が今後どのように進むのか注目しています。新たなシステムの導入を検討していただき、統計による効果・普及の見える化を進めていただきたいと思います。
- ・WEBによるアンケートもご検討ください。
- ・いまや、研修・講習会等はオンラインが主流です。今後の取組に期待します。
- ・図書館は、単に図書の貸出や本とのふれあいの場のみならず、文化・情報の宝庫であり、同時にそれらの発信の場でもある。その中でも苦小牧はいかにあるべきかが明確にあると、より一層立体的な図書館になるように感じます。
- ・図書館が開いていないと本の貸出という基本的なことができません。インターネットを利用できる環境ではない方もいるので、今後何ができるか検討していただきたいと思います。本当に必要な時に本がないのは残念です。

- 来館しなくても参加できる取組やイベントの実施について、ご検討いただきたいと思います。
- 視覚障がい者向けに電子図書館の「音声読み上げ機能」がありますが、読み違いの多い点が気になります。

「運営計画2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

【評価する点】

- ・地域課題に対しては、明確な活動と支援が見受けられます。
- ・何かわからないことがある時は図書館に問い合わせを…と仲間で話すことがあります。心強い味方です。
- ・レファレンスサービスの周知と充実。利用者のみなさんの満足度向上のため、さらなる向上をお願いします。
- ・地域のボランティアなどの活動支援に力をそそいでおり、ボランティア同士がつながる助けにもなっています。これからもお願いいたします。
- ・コロナの影響を受け、来館者が減少したことによってレファレンス受付件数が減り、成果指標の目標達成がかなわなかったのですから、仕方のないことだとも思います。
- ・ホームページから開ける「レファレンス専用の受付フォーム」はとてもよい取組です。計画通りに整備を進めたのだらうと思いますが、コロナの中、タイミングもよかったと思います。
- ・HP上で利用できる非来館者へのレファレンスサービスは、図書館の存在価値を高めるよいサービスだと思います。

【改善を要する点】

- ・レファレンス対応の内容の多様化が想定されます。職員の皆様の研修の充実を願うとともに、外部人材の活用も検討する時かとも思います。
- ・家庭生活や職業上の課題解決と支援の形や方向性が見えにくいです。
- ・一般ボランティアの養成講座があってもいいと思います。

「運営計画3 教育的役割を重視した取組の推進」について

【評価する点】

- ・運営計画3-1「子どもの読書活動の推進」の活動は充実しています。
- ・子どもの読書推進のための取組、新型コロナウイルスの影響で中止になったものもありますが、継続実施・充実をお願いします。
- ・幅広い年代に対して多くの事業があり、市民に楽しんでもらえてよいと思います。
- ・成果指標の一つである「児童貸出冊数」の減少は、コロナによる来館児童の減少が原因なので、仕方のないことです。そういう中でも、児童向けの作家講演会が開催でき、好評だったということによかったと思います。

【改善を要する点】

- ・子どもの読書活動の推進について、新たな発想での取組を期待します。
- ・中高生は、バイト先、部活の自粛により、普段より自由な時間が増えています。この世代が図書館に足を向けるチャンスととらえ、新たな取組に期待します。
- ・運営計画3-2「社会で生きていくための知識・技術等の育成」に関しては、特色として「ウポポイ」との連携や諸外国の図書館事情の紹介及び連携なども興味深いと考えます。また、他図書館との連携しての役割分担も加味するとよいのかもしれないと思います。
- ・子どもの頃から本と接することが重要と思いますが、遠くに住んでいると図書館に来る機会がなかなかなく、一度も来たことがない子も多いのではないのでしょうか。市内小学校の課外授業等で図書館に来ていただき、学ぶ機会を作ることはできないのでしょうか。
- ・新しい事業がもっとあってもいいと思います。
- ・「ブックちゃん」の貸出件数も減少してしまいました。コロナによる臨時休業で授業時間が減り、調べ学習に時間をかけられなくなってしまったことが原因だと思われませんが、それならば「調べ学習用セット」ではない「読み物セット」を増やし、学校に周知するといった工夫もあつてよかつたかもしれません。

「運営計画4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

【評価する点】

- ・新規利用登録者に自動的に電子図書館のパスワードを与えることにより利用拡大につなげたことは評価できます。
- ・よく努力していると思います。
- ・接遇及び専門性の向上。利用者の皆さんに愛され喜ばれる図書館を目指して、さらなる充実をお願いします。
- ・職員の一般の方の評価が高いようです。このまま向上して行ってください。
- ・コロナの中、非来館型サービスの充実に努めたことはよかったと思います。
- ・電子図書館の充実が図られたことはよいことだと思います。今後もニーズは高まると思いますので、さらなる充実を期待します。

【改善を要する点】

- ・障がい者・高齢者を含む非来館者へのサービス充実は、急務と考えています。どうぞよろしくをお願いします。
- ・広報紙には毎月移動図書館車のお知らせが載っていますが、特集ページで図書館を取り上げてみるのもよい方法だと思います。
- ・アンケートの他にレファレンスサービスの内容も出してほしいです。
- ・非来館型サービスは、来館しにくい環境の中にある人に向けてのサービスだと思います。それが主流になるのではなく、コロナが収まったあとを見据えて、来館者が満足できるサービスの充実を図るべく、構想を練り、研修にますます励んでいただきたいと願っております。
- ・全般に、書面開催のため、「取組状況」の“適時・随時”という言葉の多さに評価のしづらさを感じます。